



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第18号 平成25年7月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

『「環境公共」の推進に資する“新技術”普及研修会』を開催しました

県では、去る平成25年2月20日、青森市の県総合社会教育センターにおいて『「環境公共」の推進に資する“新技術”普及研修会』を開催し、県内各地から約300名が参加しました。

本研修会は、県が実践・効果検証を行ってきた①土壌硬化剤（マグホホワイト）利用溝畔、②植生水路、③環境保全型水路（ハイ！アガール）、④地下かんがいシステム、⑤深暗渠、⑥反転均平工法及び⑦小水力発電といった「環境公共」を支える7つの新技術を、ふるさと水と土基金や農地・水保管理支払交付金を活用した取組を実施している活動組織等に普及することを目的に開催しました。



講師の説明を熱心に聞く参加者の皆さん



田園空間博物館について講演する松石事務局長

初めに、八戸市の島守田園空間博物館運営協議会の松石事務局長から、「地域に融合した島守田園空間博物館」と題して、同博物館の運営状況やふるさと水と土基金を活用したイベントの実施などについて御講演をいただきました。

続いて、県の担当者から、7つの新技術の内容を説明したほか、具体的な取組事例として、農業農村工学会の優秀技術リポート賞を受賞した「ハイ！アガール」開発の経緯や意義、土壌硬化剤を活用した排水路法面の安定処理に関する取組を紹介しました。

最後に、情報提供として、NPO法人あおもりふるさと再生機構（AFS）の船越理事長から、地域の資源、技術、人材を最大限に活用して、活力ある農山漁村の地域づくりを目指す同法人の事業内容について、活動事例を交えて説明がありました。

参加者からは、「我々の地域活動の中でも新技術の取組を行いたいけど導入方法を教えてほしい」との要望が出されるなど、充実した研修となりました。



AFSの事業内容を説明する船越理事長

■「環境公共」事例紹介

安兵衛地区(今別町) ～今年もヤマメの稚魚を放流しました～

今別川支流の安兵衛川にある頭首工には、魚道が設置されていなかったことから、魚類の遡上ができない状況でした。このため、平成20年度に地域用水環境整備事業に着手し、3箇所頭首工に魚道を整備し、平成23年度に事業が完了しています。



「きれいな水」の大切さを学習

事業実施中は地域の水利組合、内水面漁協、ボランティアグループ、町、県で構成する安兵衛地区環境公共推進協議会を設立し、今別川の水質調査や魚類調査を実施してきましたが、事業完了後の現在も、環境公共プロフェッショナルの澤田瑞穂さんを中心に協議会による「環境公共」の活動を継続しています。

去る平成25年6月10日には、今別小学校の1、2年生の児童と一緒に、今別川へヤマメの稚魚を放流したほか、山・川・海をつなぐ水循環と「きれいな水」の大切さについて学習しました。子供たちは、「大きくなったらこの川へ戻ってきてね!」と稚魚に語りかけ、元気に泳ぎまわる稚魚たちを見送っていました。

また、秋には、魚道における魚類の遡上についてモニタリング調査を行う予定としています。



今別小児童がヤマメの稚魚を放流

野外学習会「後潟水土里ふれあいの旅 2013」が開催されました

去る平成25年7月2日、青森北部、青森第二北部の両土地改良区の主催で、青森市立後潟小学校5年生20名を対象とした野外学習会が開催されました。この学習会は、水源林から学校田までの農業用水の流れをたどりながら、頭首工やため池などの農業水利施設の役割を学ぶとともに、水源林や「きれいな水」の大切さを理解してもらうことを目的に平成16年から開催され、今年で10回目を迎えました。



出発前の記念写真



ため池の役割を学ぶ子供たち

最初に訪れた左堰堤では、水源林から流れてきた水を溜めて農業用水として使用するため池の役割について学習したほか、環境公共プロフェッショナルの工藤智さんから、ため池に生息している生き物の名前や特徴を学びました。子供たちは見たことのない生き物に興味津々で、ナマズやアカハライモリなどをじっくり観察したり、素手で触れては歓声を上げたりしていました。

続いて、内堰頭首工を見学した後、下流の用水路で水質調査や濁度測定を行い、水のきれいさを実感しました。

最後には、子供たちが一番楽しみにしていたアヒルレースを通して、田んぼまでの水の流れを確認し、水土里ふれあいの旅を無事に終わりました。



ため池に生息する生き物観察



アヒルレースに熱中する子供たち